



小川 純文
議員
(政清会)

問

近年、地球温暖化と深いかわりがある指摘されている異常気象の一つである、いわゆるゲリラ豪雨が都市部において甚大な被害をもたらしている。

一方、地方においても、ごく狭い範囲に短時間で強い雨が降る局地的な大雨による事故や災害も多発しており、昨年9月の音更川の堤防の一部消失や、今年5月の本町忠類地区での国道の路肩崩壊を初め、各地で道路の冠水、農地の表土流出などの大雨被害は記憶に新しいところである。

今後もしこり得る局地的な大雨などから町民の生命と財産を守っていくためには、河川が有する「洪水を安全に流下させる治水機能」を維持・向上させていくことが急務であると考え、以下の点について伺う。

- ① 猿別川、途別川における水害の発生状況について。
- ② 上統内排水機場の排水能力について。
- ③ 防災計画での位置づけについて。

問

河川管理をしていかなないと

答

関係機関に対して、町内河川の床下げや堤防の強化など要請をしている

④ 河川管理者への要請状況とその対応策について。

町長

① 猿別川の堤防決壊等により水害が発生した事例は昭和63年11月以降、発生していないが、降雨量により河川が増水し、パークゴルフサーモンコースが冠水するという被害は発生している。

また、途別川では、昭和39年以降に堤防決壊等による水害は発生していないが、隣接する札内あかしや町、泉町東およびみずほ町で、途別川の水位の上昇に伴い、樋門から河川水が逆流することから、樋門を閉鎖することにより住宅地からの内水が行き場を失い、平成10年と平成12年に床下浸水等の被害が発生し、地域住民の皆様避難勧告を発生した経緯があった。

その後、平成13年に町が設置した2カ所のゲートポンプにより内水を途別川に放流できるようになり、近年は水害の被害は生じていない。

② 施設の対象面積は190ha、

基準雨量は1日当たり119mm、設備は口径1650mm、揚水量毎秒5・7立方メートルのポンプが3台設置されている。

現在、ポンプや原動機等の老朽化が見られ、排水機場の更新を帯広開発建設部に対し要望している。

③ 防災計画は、本町における災害に対し、災害の予防、災害応急対策及び災害復旧等の災害対策を実施するに当たり、防災関係機関がその機能の全てを挙げて住民の生命と財産を災害から保護するため、猿別川及び途別川についても重要な防災対策河川として位置づけをしている。

④ 現在、十勝川の豊頃町部分のしゅんせつ工事を上流に向けて実施するとともに、中流域では、すずらん大橋から千代田新水路までの河道整備を並行して進めている。来年度には途別川の吐月橋周辺の堤防強化を図るための質的改善工事に着手するほか、糠内川の5・3kmと茂発谷川の3・4kmを優先整備区間として工事に向けた



上統内排水機場

調査に着手すると聞かしている。今後も未着手区間の整備要望並びに工事着手済み区間の早期完成に向け、関係機関に要請していきたい。

再質問

要請の取り組み中でも、区間的や部分的に緊急性を伴う部分と、長期的な整備計画等の取り組みの順位があると思うが、実情と合わせて町民に不安を与えないような対応策と今後の取り組みについては。

答 防災計画で見直し作業を進めている最中である。来年度に向けては防災担当者の評価も含めて、いろんな面から見直しができるように体制を組んでいきたい。